

## 「教科 職業・領域 木材加工」学習指導案

1. 日時 令和7年9月26日(金) 第5時限(13:10~13:50)
2. 場所 木工室
3. 学部・学年・組 中学部
4. 単元(題材)名 「両刃のこぎりを使い木材の切斷」

### 5. 単元(題材)目標

- (1) 安全に留意し、作品の製作に意欲的に取り組むことができる。 【関心・意欲・態度】
- (2) 目的に応じた材料の加工ができるよう、作業の手順や工具の使い方を考え、工夫することができる。 【創意工夫】
- (3) 工具を適切に使い、設計図に基づいた、材料取り、部品加工、組み立て及び仕上げができる。 【技能】
- (4) 製作工程を理解し、その作業内容と使用する工具の仕組みを理解することができる。 【知識・理解】

### 6. 児童生徒観

ものづくりに関しては、半数の生徒はものづくりが「好き」と答えている。また、小学校などで木材を使った工作の経験を聞いたところ、ほとんどの生徒が経験しており、その大部分は「楽しかった」という感想をもっている。このような過去の経験も手伝って、生徒のものづくりに対する関心は高いと言える。次に、「工夫してものをつくることに興味がありますか」という質問に対しては生徒の興味があると答えている。このことから、説明書通りに作品を製作することはできるが、工夫あるいは創造をしながら、自分なりの作品を製作するという意欲を伸ばしていくことが課題であると考えられる。

### 7. 教材観

職業では、「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」と学習指導要領の目標に示されており、生徒の基礎的・基本的な知識と技術の習得をするためには本教材が適していると考えられる。

### 8. 指導観

現在、生活に使われている日用品や家具などは、多様な材料を組み合わせられてつくられているものが多く、それぞれの材料の長所を生かして作られている。私たちは生活に必要なものをほとんど購入し、自分自身でもものをつくるのが少なくなってきた。また、古くから使われている道具の使い方に不慣れなことも、ものをつくらない一因と考えられる。ものづくりの経験が乏しくなりつつある今、本単元の製品の製作において、生徒がものづくりの楽しさや完成の喜びを味わうことで、主体的に製作に取り組む意欲や態度を身につけていくことが大切であると考えられる。また、問題解決的な学習や実践的・体験的な学習を通して、自分に自信をもち、生活を工夫し創造しようとする意欲が高まるようにする。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>両刃のこぎりの名称を言える。</li> <li>刃の向きや持ち方を理解している。</li> <li>のこぎりを正しく持ち、木材を固定して切ることができる。</li> <li>安全に配慮しながら作業できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木材の切断に必要な手順を理解し、順序よく作業できる。</li> <li>困ったときに教員や友達に助けを求めることができる。</li> <li>「うまく切れた」「力をいれすぎた」など、自分の作業について簡単な言葉で表現できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業に意欲的に取り組む。</li> <li>道具や材料に興味を示す。</li> <li>教員の指示を待たずに準備や片付けをしようとする。</li> <li>自分の役割を理解し、進んで行動する。</li> </ul>

10. 単元の指導と評価の計画（全12時間、本時は第5時）

次	時	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1	1	製作の準備をする。	材料の特徴について考えた部品の取り方ができる。	ワークシート
	2	構想図をもとに部品表、製作工程表を作成する。	むだなく材料を使うために部品の配置を工夫することができる。	
2	3	図面どおりにけがく。 ・ 使用材料ごとのけがき方と使用工具を知る。 ※けがきとは、加工や組み立てをする前に、材料の表面に線や印をつけて、正確な位置や形を示す作業のことです。	材料や作業に適した工具を用いて安全で正確にけがきができる。	材料（けがき後） 実技 （仕上がり寸法線と切断線）
	4	仕上がり寸法線 切断線・製作に必要な図に基づいてけがき作業を行う。	材料や作業に適したけがき用工具の用途や種類がわかる。	
3	5	材料の切断→のこぎりびき・使用材料ごとの正確な切断方法を知る。 ・材料を切断線にそって切断する。	刃の違いや共通点を調べ、積極的にその知識を活用している。	ワークシート 実技（のこぎりびき）
	6		材料に適した方法で正確に安全に切断することができる。	
	7		切断工具の正しい使用方法がわかる。	

4	8	組み立て→下穴あけ、釘打ち・ 使用材料の組み立て方法を知る。	設計どおりに組み立てようとしている。	作品（組み立て後）実技（けがき・穴あけ・釘打ち）
	9	①仮組み立て ②接合部のけがき	構想図にもとづいて組み立てができ、接合部分の直角度のずれを検査し、必要に応じて修正できる。	
	10	③組み立て ④組み立て後の検査と修正。		
5	11 12	仕上げ・製品の材料や使用目的にあった仕上げ方法を調べ、 素材や用途にあった表面処理をする。・製品の評価をする。	目的にあった仕上げができる。  目的にあった仕上げ方法がわかる。	完成作品 振り返りシート

## 11. 本時の展開

### （1） 本時の目標

木目に対して適した方法で正確に安全に切断することができる。（技能）

### （2） 本時の評価規準

- ・のこぎり挽きのポイントを理解し、意欲的に取り組むことができる。
- ・以前の実習の際に1人で切断したときと本時を比較し、学び合うことの大切さに気づくことができる。

### （3） 本時の ICT 活用のポイント（活用のねらい、工夫する点）

電子黒板を活用し、動画や写真を用いて作業工程や注意点を視覚的に分かりやすく丁寧に説明する。

### （4） 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
10分 導 入	1 課題をつかむ。 （1）のこぎりびきのポイントを班で確認をする。 （2）のこぎりびきの方法について、まとめる。  （3）本時の目的を確認する。	（1） 班で意見交流をさせて、確認させる。 （2） 生徒からの気づきで出てこなかったポイントを補足しながら切断方法をまとめる。 （3） 目標を確認する。	◇全体交流（意欲・関心）

<p>25分 展 開</p>	<p>2 課題を追究する。 （1）班でペアをつくり、切断者と確認する人にわかれ、のこぎりびきををする。</p> <p>3 課題を深める。 （1）2人とも切断が終わったら、ペア・班で意見交流をし、どのようなことに気をつける必要があったか、確認をする。 （2）確認後、反省点をいかしながら、確認する人と協力をし、切断をする。</p>	<p>（1）確認する人は評価者ではなく、協力者だということを理解させ、切断を行わせる。</p> <p>（1）ペア・班で意見交流をさせて、再度切断をさせる。</p> <p>（2）机間巡視を行ない、切断が上手くいっていない場合は確認する人に声をかけて、修正するポイントを伝え、切断者に伝えるように促す。</p>	<p>◇材料に適した方法で、安全に切断することができるか。 （様相観察）</p> <p>◇材料に適した方法で、安全に切断することができるか。 （様相観察）</p>
<p>5分 ま と め</p>	<p>4 まとめ・振り返り （1）本時の学習を振り返り、ワークシートに記入をする。</p>	<p>（1）ワークシートを記入させて、今後の実習に向けて発表させる。</p>	<p>◇ワークシート（知識・理解） ◇全体交流（意欲・関心）</p>